

立命館大学理工学部 正会員 笹谷康之
立命館大学理工学部 学生会員 ○坂本 淳

1. まえがき

近年、マルチメディア情報発信およびインフラストラクチャー（以下インフラと称す）の進歩とパソコンをはじめとする装置の普及により、全国各地の自治体でインターネット等のマルチメディアによる「地域情報の発信」が試みられている。その多くは「地域情報化」というプロジェクトとして自治体により大きな規模で計画されており、将来の我々の生活に大きな変化をもたらす可能性を秘めている。しかしながら、多くの地域情報がマルチメディア化されつつある中、市民の利益性に配慮したコンテンツは意外に少ない。また、多くの計画が大規模なプロジェクトとなっているために、事業が達成されるにはながい時間が必要となる。そこで、現在早急に整備が可能で、今後の光ファイバー等といった、ネットワーク・インフラの整備に対応することが容易という点から、専用アプリケーションとしてのCD-ROMコンテンツおよびインターネットを利用した簡素な地域情報システムの開発を提案することにした。本研究では、京阪神地域のベッドタウンである滋賀県草津市を対象とし、地域的生活情報を簡単に入手可能なように、医療、福祉施設、交通基盤等の情報の蓄積、検索ができるデータベース性のあるシステムを開発し、その活用法を提案する。

2. 新たなまちづくりの手段としての地域情報化

「まちづくり」とは住民の自発的、主体的参加を前提とした言葉であり、1988年に初めて実施された「都市計画」とは異なる。地方分権が推進され地方独自の自治が実現されていくであろう今後は、両者を一致させていく必要がある。そのような上で地域情報化の推進をもたらすメリットは、行政文書のデジタル化や情報公開性の向上があり、作業効率のスリム化から地方分権化を促進するものと述べるができる。一方、地域的に見るならばネットワークインフラの充実を産み、新たな情報ネットワークにおいて行政、民間企業、住民等が対等な立場となる。この両者の流れによって、地域社会の新たなデジタルネットワーク化が実現し、地域に根差した「まちづくり」の実現にふさわしい横並びの社会に変化させることが可能である。以上のことより、各地で計画されている地域情報化はその新たな手段のひとつとして再認識されるべきものである。

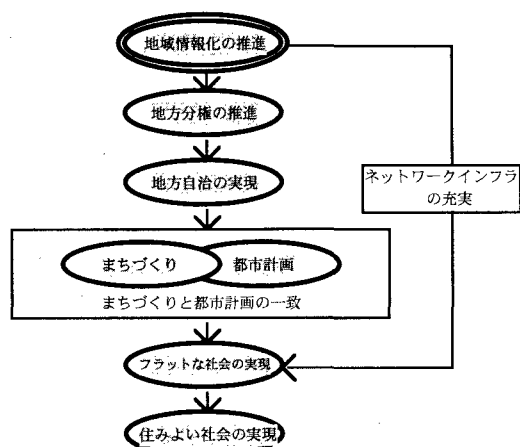


図1 地域情報化の重要性

3. 滋賀県草津市における地域情報化

草津市においても地域情報化計画が策定されているが、我々立命館大学景観計画研究室の技術支援により草津市の外殻団体である（財）草津市コミュニティ事業団がコミュニティの新たな空間形成を目的としてホームページを開設している。このページの提供する地域情報によって、地域の活性化および快適な生活を営むことができることを目標としているものであり、既存のインフラを活用した極めて効率的な地域情報化のひとつの方法とすることができる。ホームページを主体とした地域情報の発信としては開設はむしろ遅い方であったが、ほぼ同時期に開設した草津市のホームページに比べコミュニティ性を重視したものであることが特徴である。内容的には草津市が開設するものと差別化を図るために作成にあたって留意した点は以下の通りである。なお、このホームページは本研究の基盤となるものである。

コミュニティ性	住民にとって公共性の高いものを掲載。広くリンクをとる。
更新性	事業団発行広報誌のweb版掲載。あらゆる方面でのイベント情報の告知。
データベース性	まちのあらゆる情報を誰でも自由に書き込み可能にし、蓄積していく。
軽いページ	現在の通信環境を考慮し、画像の掲載を最低限に抑えた、テキスト中心の構成。
デザイン	どの年齢層にもなじむシンプルなデザイン・配色。
双方向性	従来のマスメディアにない双方向的な方法による情報の提供。

表1 作成にあたって留意した点

Yasuyuki SASATANI, Jun SAKAMOTO

4. CD-ROMコンテンツおよびインターネットを用いた生活情報発信の提案

4.1 CD-ROMコンテンツのメリット

CD-ROMとはCompact Disk (CD)-Read Only MEMORY (ROM)の略称で、読み出し専用の記録媒体のひとつである。記録できるデータ量は最大650メガバイトで、近年のパソコンで再生ドライブ搭載のパソコンが家庭や職場、学校等一気に導入され、誰もが簡単に大容量のメディアを使いこなせるようになった。

収納データ量	大容量のメディアを容易に配信可能。
大量制作にかかるコスト	CD-ROM原盤が1枚あたり100円程度と安価。簡単にコピー再生産が可能。
装置やソフトウェアの普及率の高さ	家庭用パソコンにもCD-ROM再生装置は標準装備され、家庭用CD-ROMゲーム機が普及し利用経験度が高い。
更新頻度の高い情報に關しての利用	更新頻度の低い一般的な情報に關しての繰り返し利用では、インターネットに關する通信コスト、アクセス時間を考慮する心配がない。
検索性の高さ	情報の限定、ボタン等GUI技術の利用で検索性を高めることが限りなく可能。
信頼度の高さ	限定された情報を確実に提供が可能な信頼性の高さ。

表2 CD-ROMコンテンツのメリット

4.2 インターネットコンテンツのメリット

現在インターネットで接続されているパソコンは世界中で2億台を超えているといわれ、なおネットワークを拡大し続けている。この要因には誰もが、あらゆる機種を接続できる「オープン性」と、各端末からの情報の送受信が可能な「情報の相互共有性」に優れているからである。さらにデジタルネットワークによる特長を多く有している。

発信者	コンテンツの更新性の高さ	サーバ（端末）に新規コンテンツの追加をしていくだけで最新情報を配信可能。
	追加投資の少なさ	公開するデータを1度サーバに置くだけで、その後の投資の必要がない。
	流通の簡略性	運送費、在庫処理の心配がなく経済的。
受信者	コンテンツを小口に享受	必要な情報を限定しをコンテンツを小口で安価に入手可能。
	常時購入可能	常時必要なときに購入可能。

表3 インターネットコンテンツのメリット

4.3 コンテンツのシステム構成

CD-ROMおよびインターネットにおけるコンテンツのシステム構成図はおおよそ以下のようになる。8つの分野において5つの検索方法によって詳細な情報を入手できるシステムを開発した。

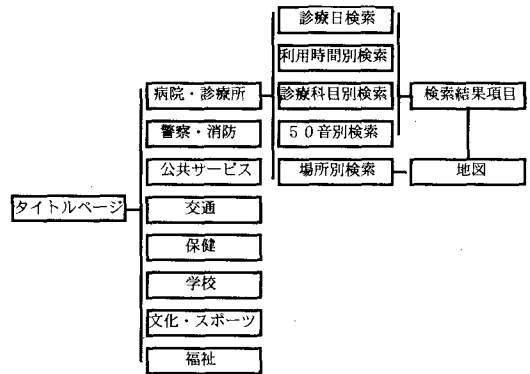


図2 コンテンツシステム構成図

4.4 両者の融合による新しいシステム

以上のようなコンテンツによる地域情報システムを早期に低コストで実現させるためには次のような配慮が必要であると考えられる。前述の双方のメディアのメリットを活かし環境を整備することで、従来の地域情報化計画に比べ、極めて少ない投資ですらに大きな結果を産むことが可能である。

- ・CD-ROM再生装置の普及性、既存のネットワークであるインターネットを再活用
- ・あくまでも住民にとって必要な情報発信に主眼を置く。
- ・住民の屋外での幅広い利用にあたって新規に施設を整備するよりも、各地域の既存施設を再利用することにより低予算での事業化が可能であり、多数の端末確保、システム充実を図ることが可能。

公共施設	郵便局、図書館、博物館、各種学校、役所、文化ホール、公民館等
民間商業サービス施設	銀行、鉄道駅、バス停、スーパー、コンビニエンスストア、デパート、ファーストフード店、飲食店等

表4 再利用可能な既存施設

5. おわりに

本研究では、従来の地域情報化計画に対して、インターネットおよびCD-ROMコンテンツを用いた地域情報化の利点を生活情報のコンテンツ作成を通じて提案することができた。今後実践の場において、インターネットとCD-ROMコンテンツを併用する有用性を住民アンケート等を通じて検証していく予定である。